ISSN 1881 － 980X

一般社団法人日本科学教育学会
Japan Society for Science Education
発　行：中山　迅
事務局：中西印刷株式会社　学会部内
URL：*http://www.jsse.jp*

2018.4.15
NO.237

科学教育研究レター

JSSE
日本科学教育学会

目　次

■ **理事会だより** ……… 2
日本科学教育学会第 278 回理事会報告(案)

■ **選挙管理委員会だより** ……… 5
一般社団法人日本科学教育学会役員選挙・代議員選挙のお知らせ

■ **学会賞** ……6
2018 年度学会賞候補者の募集(再)

■ **年会** ……8
第 42 回年会開催案内（第４次）

■ **支部・研究会だより** ……15
2017 年度研究会開催のお知らせ

■ **国際交流委員会だより** ……17
国際学会開催情報
国際学会参加報告(49)
国際学会参加報告(50)

■ **若手活性化委員会だより** ……23
日本科学教育学会第 42 回年会若手ワークショップ・フィールドワーク・スタートパーティ予告(第２報)

■ **編集委員会だより** ……24
特集のお知らせ
2017 年度第 2 回編集理事会報告

■ **学会員のみなさまへ** ……27
異動等による連絡先変更

■ **広報委員会からのお知らせ** ……28

日本科学教育学会第 278 回理事会報告（案）

（議事要録承認前．要点のみ参考掲載）

日　時　2018年3月17日（土）14:00～17:00
会　場　株式会社内田洋行　新川第２オフィス　801会議室
出席者
会　長　中山迅，　副会長 吉岡亮衛，猿田祐嗣
理　事　佐伯昭彦，宮崎樹夫，坂谷内勝，村山　功，久保田義彦，三宅志穂，鈴木栄幸，竹中真希子，荻原　彰，縣　秀彦，山下修一，隅田　学，加藤久恵，大谷　忠，舟生日出男
監　事　片平克弘
事務局長　吉川　厚
年　会　宮崎樹夫
年会企画委員長　松嵜昭雄
庶務担当幹事　川上　貴

１．議事要録（案）の承認
○第 277 回理事会議事録（案）を承認した．

２．第 278 回理事会までの電子会議による審議事項と審議結果
○事務局からの発議により，11/30 までに入会を希望した 10 名を電子会議により審査した結果，全員の入会が承認された（12 月 4 日）．
○事務局からの発議により，1/31 までに入会を希望した 5 名及びシニア会員 1 名を電子会議により審査した結果，全員の入会が承認された（2 月 2 日）．
○事務局からの発議により，2/28 までに入会を希望した 3 名を電子会議により審査した結果，全員の入会が承認された（3 月 3 日）．

３．報告事項
1) 庶務・事務局
○事務局より文書受理（刊行物送付を含む）や諸対応の報告があった．

2)　選挙管理委員会
○Web 投票のテストと選挙費用について報告があった．

3) 機関誌編集
○通常号と特集号の編集状況について報告があった．
○「科学教育研究」第 43 巻第 2 号にて，特集名「科学教育におけるテクノロジー活用の将来像」を企画

する旨の報告があった.

3) 若手活性化
○若手活性化委員会担当の研究会開催について報告があった.
○第 41 年会における若手活性化委員会企画の準備状況について報告があった.

4) 支部・研究会
○研究会開催状況について報告があった.

5) 年会企画委員会
○第 42 回年会（信州）の準備状況について報告があった.
○第 43 回年会（宇都宮）の準備状況について報告があった.

6) 調査研究・学術交流
○男女共同参画ワーキンググループより活動の報告があった.
○教科「理科」関連協議会シンポジウムの開催について報告があった.

7) 国際交流
○第 42 回年会での国際ランチョン・ミーティング開催について報告があった.

8) 学会賞
○2018 年度学会賞候補者の募集について報告があり，候補者の推薦の要請があった.

9) 電子化部会
○「科教研報」と「年会論文集」の J-STAGE への移行・登録の進捗状況について報告があった.

10) 代議員選挙・役員候補者選挙管理委員会
○代議員選挙及び役員候補者選挙の候補者推薦について会員からの推薦があったことが報告された.

11) その他
○2017 年度中間決算報告について説明と報告があった.

４．協議事項
1) 退会希望者について
○退会希望者 6 名の承認について承認した.
現在会員数 1,242 名（正会員 1,230 名，学生会員 128 名，名誉会員 13 名，公共会員 1 名，賛助会員 3 名，シニア会員 42 名）（2018 年 3 月 6 日付）

2) 機関誌編集

○投稿査読システムのカスタマイズについての提案があり，予算支出が承認された.

3) 年会企画委員会

○課題研究のあり方に関する改革の方向性についての提案があり，継続審議とされた.

4) 財政健全化検討部会（仮）

○予算支出の削減について学会業務の見直しと見直しの体制について提案と説明があり，財政健全化検討部会（仮称）を立ち上げ，当学会の今後のあり方を検討することが承認された.

5) 電子化部会

○経費削減の検討を行った上で，電子化済み残データ（恒常化対策実施以前に発生するデータ）の J-STAGE への移行登録を実施することを承認し，J-STAGE に登録するデータ内容を決定した.

○J-STAGE への恒常的な登録に向けた方針について，予算の見積りを行うこと，次回総会に諮ることを承認した.

6) 代議員選挙・役員選挙について

○代議員候補者，理事候補者及び監事候補者について提案があり承認した.

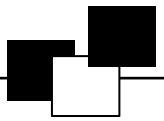
５．その他

○第 15 回日本学術振興会賞受賞候補者推薦については見送ることが報告された.

６．次回以降の理事会予定

・第 279 回：2018 年 6 月 16 日（土）14:00～17:00　場所：株式会社内田洋行　新川本社
・第 280 回：2018 年 8 月 17 日（金）14:45～16:45　場所：信州大学教育学部（長野市）備考：改選前
・第 281 回：2018 年 8 月 19 日（日）12:30～13:30　場所：信州大学教育学部（長野市）備考：改選後
・第 282 回：2018 年 11 月 17 日（土）14:00～17:00　場所：株式会社内田洋行　新川本社
・第 283 回：2019 年 3 月 16 日（土）14:00～17:00　場所：株式会社内田洋行　新川本社

一般社団法人日本科学教育学会役員選挙・代議員選挙のお知らせ



役員選挙管理委員会
代議員選挙管理委員会

前号においてお知らせしましたように，次年度（2018 年 7 月 1 日～）以降の新役員候補および第三期代議員の選挙を実施します.

選挙は以下の要領で，電子投票によって行われます.

ID/パスワードの発送（郵送）　5 月 7 日（月）
投票締め切り　5 月 31 日（木）23：59

電子投票は 5 月 7 日以降，可能になります．投票先 URL につきましては，郵送物に記載しております.

選挙公報は投票先 URL からご覧ください. また, 選挙公報は投票後には閲覧できなくなりますので, 予めダウンロードしていただきますようにおねがいします.

学会賞

公　示

2018 年度学会賞候補者の募集（再）

一般社団法人日本科学教育学会　大塚賞，同学術賞，同国際貢献賞，同論文賞，同科学教育実践賞，同功労賞，及び同奨励賞の候補者を下記により募集します．会員の皆様からの多数の推薦をお願い申し上げます．

１．　推薦期限

2018 年（平成 30 年）5 月 14 日（月）（必着）

２．　推薦資格

(1) 推薦者は会員とする．

(2) 会員は，各賞について，それぞれ１件のみ推薦できる．

(3) 各賞の推薦は他薦のみとする．

(4) 推薦者は，推薦書の様式を学会ホームページ（「各書式」からダウンロードできます）で，入手の上，その様式にしたがって作成した推薦書を学会事務局に提出する．

３．　受賞資格

(1)　大塚賞：科学教育に関する著しい業績や貢献によって本法人の発展に寄与した会員とする．なお，本賞の受賞は１度限りとする．

(2)　学術賞：科学教育において先導的・開拓的な業績や功績を挙げ，科学教育の発展に寄与した会員とする．対象となる業績や功績は，原則として，推薦期限の日から過去 10 年以内のものとする．なお，本賞受賞後さらに顕著な業績や功績をあげた場合には，その部分について受賞対象とする．

(3)　国際貢献賞：科学教育の国際貢献・国際協力研究に関して顕著な業績や功績のあった会員とする．対象となる業績や功績は，原則として，推薦期限の日から過去５年以内のものとする．なお，本賞受賞後，さらに顕著な業績や功績をあげた場合には，その部分について受賞対象とする．

(4)　論文賞：科学教育に関する優れた研究を行い，その成果を「科学教育研究」に論文として発表した会員とする．対象となる論文は，原則として，推薦期限の日から過去３年以内に発表されたものとする．なお，本賞受賞後さらに優れた論文を発表した場合には，その論文について受賞対象とする．

(5)　科学教育実践賞：科学教育の実践研究に関して顕著な業績や功績のあった会員，または，会員との連携により，科学教育に従事し，顕著な業績や功績のあったグループとする．対象となる業績や功績は，原則として，推薦期限の日から過去３年以内のものとする．なお，本賞受賞後さらに顕著な業績や功績をあげた場合には，その部分について受賞対象とする．

(6) 功労賞：学会の管理・運営を通じて学会活動の充実・発展に寄与した会員とする．なお，本賞の受賞は１度限りとする．

(7) 奨励賞：科学教育に関する優れた研究を行い，その成果を「科学教育研究」,「年会論文集」,「研究会研究報告」に発表した若手の会員とする．対象となる論文等は，原則として，推薦期限の日から過去２年以内に発表され，受理の時点で 39 歳以下のものとする．なお，本賞の受賞は１度限りとする．

４． 受賞件数

各賞の受賞件数は特に定めない．

５． 選考

会員からの推薦に基づいて，学会賞選考委員会が候補者を選定し，理事会が決定する．

６． 賞

(1) 本賞は賞状とする．

(2) 賞の贈呈は，2018 年度代議員総会において行う．

７． 備考

論文賞の対象は，「科学教育研究」Vol.39，No.2 以降に掲載の論文とする．また，奨励賞の対象は，「科学教育研究」Vol.40，No.2 以降，「研究会研究報告」Vol.30，No.7 以降及び第 40 回・第 41 回年会論文集に掲載の論文等とする．

第 42 回年会 開催案内（第４次）

年会企画委員会・年会実行委員会

１．年会テーマ：我が国の学術界における「科学教育」の充実と発展

趣旨：2015 年 9 月に「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」(SDGs)が国連加盟国 193 カ国の全会一致で決議された．SDGs の 17 目標と 169 のターゲットの達成により，健全な自然環境，持続的な経済発展，平和で公正で包括的な社会の互恵性が高まり，自然資本，人工資本，社会資本，人的資本が潤沢に提供されるようになり，最終的に人類の幸福度(well-being)の増進が実現可能となる．しかしながら，目標やターゲットのなかには現状の延長線上では達成困難なものも少なくない．それ故に，学術・科学技術によるイノベーションに社会から大きな期待が寄せられている．

こうした世界的な潮流にあって，科学技術立国たらんとする我が国の「科学教育」は自らの役割を十二分に果たしているといえるだろうか．特に学術界において，科学研究費補助金の審査区分の策定経緯にみられるように，「科学教育」は，もはや理系教科の教育関連集合体として存立し得ず，我が国のみならず国際社会と科学との「契約」に基づいて，両者の有機的な関係を促進する多種多様な資本を充実し発展するものへと開化してゆかなくてはならない．そこで，本年会のテーマを前記のように定めるものとする．

２．主催：一般社団法人日本科学教育学会

３．後援（予定・申請中を含む）：文部科学省，長野県教育委員会，長野市教育委員会，
公益社団法人信濃教育会，国立大学法人信州大学

４．日程：2018 年 8 月 17 日（金）～19 日（日）（３日間）

５．会場：信州大学 長野（教育）キャンパス
（〒380-8544　長野県長野市西長野６－ロ）
http://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/maps/map01.html

※同じ長野市内に，長野（工学）キャンパスもありますので，ご注意ください．

※信州大学の本部は，松本キャンパス（松本市）にあります．

※懇親会（18 日（土）夕方）は，犀北館ホテルで行います．
犀北館ホテル　〒380-0838 長野県長野市南長野県町 528-1
（長野（教育）キャンパスから徒歩約 5 分）

６．タイムテーブル（予定）　※プログラム編成により変更になる場合があります.

	1日目：8月17日（金）		2日目：8月18日（土）		3日目：8月19日（日）	
8:30			受付 8:30−9:00		受付 8:30−9:00	
8:45	受付 8:45−9:30					
9:00			課題研究発表④ （2時間） 9:00−11:00	一般研究発表⑨ （2時間） 9:00−11:00		一般研究発表⑬ （2時間） 9:00−11:00
9:15						
9:30	課題研究発表⑥ （2時間） 9:30−11:30	インタラクティブセッション （2時間） 9:30−11:30				
9:45						
10:00						
10:15						
10:30						
10:45						
11:00			休憩・移動（15分）		休憩・移動（15分）	
11:15			総会（代議員総会）・表彰 （1時間30分） 11:15−12:45		招待講演（科学教育特別セミナー） （1時間） 11:15−12:15	
11:30	昼食・各種委員会 （1時間00分） 11:30−12:30					
11:45						
12:00						
12:15					休憩・移動（15分）	
12:30	課題研究発表⑥ （2時間） 12:30−14:30	チュートリアル （若手活性化委員会企画） （2時間） 12:30−14:30	昼食 （1時間15分） 12:45−14:00	ランチョンミーティング（国際交流委員会企画）（1時間） 12:45−13:45	昼食・理事会（改選後） （1時間00分） 12:30−13:30	
12:45						
13:00						
13:15						
13:30					（課題研究発表） （2時間） 13:30−15:30 ※発表申込件数による	（一般研究発表） （2時間） 13:30−15:30 ※発表申込件数による
13:45				移動（15分）		
14:00			シンポジウム （3時間30分） 14:00−17:30			
14:15						
14:30	移動（15分）					
14:45	理事会（改選前） （2時間） 14:45−16:45	フィールドワーク （若手活性化委員会企画） （1.5時間） 14:45−16:15				
15:00						
15:15						
15:30						
15:45						
16:00					年会実行委員会・年会企画委員会合同会議 （1時間）※繰り上がる場合あり 15:30−16:30	
16:15		移動（45分）				
16:30						
16:45	移動（15分）					
17:00	顧問・理事・支部長・代議員合同会議 （2時間） 17:00−19:00	スタートパーティー （若手懇親会） （若手活性化委員会企画） （2時間） 17:00−19:00				
17:15						
17:30			移動（30分）			
17:45						
18:00			懇親会 （2時間） 18:00〜20:00 会場：犀北館ホテル			
18:15						
18:30						
18:45						
19:00						
19:15						
19:30						
19:45						

※丸数字は会場数（予定）

※19 日（日）午後の研究発表は予定していませんが，発表申込状況により設定する場合もあります.

※この他，各委員会等による企画，各委員会の会合等があります.

７．内容：次の内容を予定しています

（1）シンポジウム「科学教育研究のグローバル化（Globalization of Research in Science Education of Japan）」

構成：前半：ミニ講演２名（通訳あり）

Wegerif Rupert 氏（University of Cambridge）

Keith Jones 氏（University of Southampton）

後半：パネルディスカッション（３名＋ミニ講演の２名＋司会１名）

清水美憲氏（筑波大学）
磯崎哲夫氏（広島大学）
村松浩幸氏（信州大学）
司会：宮﨑樹夫氏（信州大学）

（2）科学教育研究セミナー（招待講演）

2017 年度学会賞「論文賞」受賞　坂本美紀先生（神戸大学）
受賞論文：坂本美紀（神戸大学）・山口悦司（神戸大学）・西垣順子（大阪市立大学）・益川弘如（聖心女子大学）・稲垣成哲（神戸大学）:「科学技術の社会問題に関する学習者の思考の評価フレームワークの研究動向」科学教育研究，40(4)，pp. 353-362，2016

（3）課題研究発表

「８．発表申込等について」をご覧ください.

（4）一般研究発表

「８．発表申込等について」をご覧ください.

（5）インタラクティブセッション

ポスター発表もしくは実演紹介の形態で，研究内容についてインタラクティブにじっくりと語り合う場です.

（6）その他の企画：代議員総会，懇親会，各種会合など

８．発表申込等について

（1）課題研究発表の申込・原稿提出

特定のテーマについて徹底的に議論できる場とします．企画をお持ちの方は応募ください.

＜スケジュール（予定）＞

・企画応募締切：**2018 年 4 月 20 日（金）**【オーガナイザー→年会企画委員会】
・受理審議：　**2018 年 4 月 23 日（月）～4 月 26 日（木）**【年会企画委員会】
・審議結果報告：**2018 年 4 月 27 日（金）**【年会企画委員会→オーガナイザー】
・原稿提出期間：**2018 年 5 月 14 日（月）～6 月 13 日（水）**【オーガナイザー→アップロード】
※ 6 月 13 日（水）は，登壇者がオーガナイザーに提出する期限ではなく，オーガナイザーが登壇者全員の原稿をとりまとめて年会企画委員会に提出（「JSSE 年会申込 Web サイト」からアップロード）する期限です.

＜企画応募方法＞

・年会 Web サイト掲載の方法で，申し込んでください.

＜原稿提出方法＞

・年会 Web サイト掲載の方法で，「JSSE 年会申込 Web サイト」から必要事項を記入の上，完成原稿（発表 1 件あたり 4 ページまたは 2 ページ）の PDF ファイル（1 ファイル約 1MB 未満，セキュリティなし）を提出（アップロード）してください.

＜応募に当たっての留意事項＞

・オーガナイザー資格：会員でなければなりません.
・登壇者：登壇者を企画受付締切までに確定してください．課題研究発表での登壇は 1 回とし，登壇者

の重複はできません．登壇を依頼される場合には，当該登壇者が他の課題研究発表と重複ができない点を周知・確認した上で確定するようにしてください．なお，登壇者とは別に指定討論者を立てる場合には，申請用紙に記入してください．指定討論者については，重複を認めます．

・登壇者資格：登壇者は会員，非会員を問いません．ただし，非会員による発表件数は，原則として当該課題研究における全発表件数の半数を超えないものとします．やむを得ずに半数を超える場合は，企画受付締切までにその理由を申請用紙に添えて申し込んでください．非会員の発表件数が全発表件数の半数を超えた場合で理由書の添付されていない企画は受理されません．非会員の発表件数が当該課題研究における全発表件数の半数を超えている企画について受理するかどうかは，年会企画委員会で審議します．なお，受理された企画であっても，受理後に登壇者の変更がなされ，非会員による発表件数が当該課題研究における全発表件数の半数を超えた場合，受理が取り消される場合もありますので，ご留意願います．

（2）一般研究発表・インタラクティブセッションの申込・原稿提出

＜スケジュール（予定）＞

・申込及び原稿提出期間：2018 年 5 月 14 日（月）～6 月 13 日（水）

※申込と原稿提出を同時に行ってください．

※期日等に変更が生じた場合は，学会 Web や科学教育研究レターなどで通知します．

＜申込及び原稿提出方法＞

・年会 Web サイト掲載の方法で，「JSSE 年会申込 Web サイト」から必要事項を記入の上，完成原稿の PDF ファイル（1 ファイル約 1MB 未満，セキュリティなし）を提出（アップロード）してください．

・書式や留意事項等の詳細は，「日本科学教育学会 年会論文集 執筆要項」をご覧ください．

※第 41 回年会までは，一般研究発表及びインタラクティブセッションのページ数は「2 ページ」でしたが，「2 ページまたは 4 ページ」に変更します．

＜資格・登壇可能件数＞

・登壇者は会員でなければなりません．

※本欄における「会員」とは，学会事務局が入会申込書の受付を済ませていることを意味します．ただし，発表申込及び原稿提出期間と年会開催日程が学会の事業年度（毎年 7 月 1 日から翌年 6 月 30 日）をまたぐため，入会申込書の受付を済ませた者の入会時期（入会手続きの完了時期）については，発表申込及び原稿提出期間の年度ではなく，年会が開催される新年度からの入会でも可とします．

・登壇者として申込可能な一般研究発表・インタラクティブセッションの件数は，各 1 件です．なお，一般研究発表・インタラクティブセッションの登壇者は，課題研究，その他の企画にも登壇することができます．

＜発表時間＞

・一般研究発表の持ち時間は 20 分程度（発表 15 分，質疑・討論 5 分）を予定しています．

・インタラクティブセッションは 2 時間の発表時間を設定する予定です．

（3）年会論文集原稿の執筆内容に関する留意事項

原稿執筆にあたっては，次の要件を満たすように心がけてください．

◆研究領域

日本科学教育学会の会員が関心を持つ研究領域の研究である.

◆主題または問題の所在

問題の所在が明快である.

◆研究の背景

関連研究，依拠する理論，関連する実践等によって，研究の背景が明示されている.

◆研究の方法

研究の方法論，手順，計画などが適切で，それらが明示されている.

◆結果と知見

得られた結果，知見，アイデア等が明示されている.

◆結論

問題の所在に即した結論や課題が明示されている.

９．各委員会等による企画

（1）若手活性化委員会

17 日（金）の午後から夜にかけて，ワークショップ，フィールドワーク，スタートパーティを計画中です．詳細は，本号『科学教育研究レター』の「若手活性化委員会だより」をご覧ください.

（2）国際交流委員会

18 日（土）の昼に，国際ランチョン・ミーティングを計画中です．国際学会・イベントに興味のある方の情報交換・交流の場となるようプログラムを準備中です.

10. 懇親会

懇親会は原則として，年会 Web サイトからの事前申込みです.

・日時：8 月 18 日（土） 18:00～20:00

・会場：犀北館ホテル（http://www.saihokukan.com/）

・懇親会費：以下の表をご参照ください.

・申込先：参加申込みとあわせて，年会 Web サイトの参加申込み用リンクからお申し込みください.

・支払方法：参加費と合わせて送金してください．その際，大学名・会社名で送金される場合は，個人が特定されませんので，年会実行委員会事務局までご一報ください.

・当日申込：余裕がある場合には当日申込も受け付ける場合もありますが，定員になり次第，締め切らせていただきますことをご了承ください.

11. 参加費

・Web 参加申込期日：2018 年 5 月 1 日（火）（予定）～7 月 10 日（火）

※発表申込・原稿提出に加えて，Web 上からの参加申込もお願いします.

発表申込だけですと，参加申込が行われていない状態となってしまいますのでご注意ください.

・参加費等事前振込（送金）期限：7 月 31 日（金）

・申込先：年会 Web サイトの参加申込用リンク（東武トップツアーズ（株）が管理）からお申し込みください.

参加費及び懇親会費は，表の通りです.

参加費	事前（7 月 10 日まで）	7 月 11 日以降申込及び当日
一般会員	¥5,000	¥7,000
学生会員	¥3,000	¥4,000
一般非会員	¥7,000	¥9,000
学生非会員	¥4,000	¥5,000
論文集 USB 追加購入	事前（7 月 10 日まで）	7 月 11 日以降申込及び当日
種別関係なく	¥2,500	¥2,500
懇親会費	事前（7 月 10 日まで）	7 月 11 日以降申込及び当日
一般会員	¥6,000	¥8,000
学生会員	¥3,000	¥4,000
一般非会員	¥7,000	¥8,000
学生非会員	¥3,000	¥4,000

※参加費には，年会論文要旨集（冊子体）1 冊，年会論文集（USB メモリ）1 個が含まれています.

※論文集 USB 追加購入には，年会論文集（USB メモリ）1 個が含まれています．ただし，年会論文要旨集（冊子体）は含まれていません.

※支払方法：年会 Web サイトに掲載の方法で送金してください．手数料はご負担ください.
その際，大学名・会社名で送金される場合は，個人が特定されませんので，年会実行委員会事務局までご一報ください.

※事前申込期限（7 月 10 日）以降の申込および参加費等事前振込（送金）期限（7 月 31 日）以降の送金の場合は，当日参加費・当日懇親会費の金額のお支払いになりますことをご了承ください.

※申込後（参加費・懇親会費を送金後）のキャンセルの場合，理由の如何を問わず，返金はできかねますので予め承知願います．年会後に，論文集 USB を郵送する予定です.

12. 宿泊と弁当の斡旋

上記「11.参加費」からの参加申込時・送金時に，東武トップツアーズ（株）をとおして次の申込も可能です.

（1）宿泊：長野駅周辺のホテルを申込可能です.

（2）弁当：17 日（金）と 18 日（土）の弁当を申込可能です.【事前予約のみ】

※信州大学長野（教育）キャンパス周辺には飲食店が少なく，キャンパス内の生協食堂の営業予定もないため，弁当の事前予約をお勧めします．お茶付き・消費税込で 900 円程度を予定しています.

13. 連絡先：日本科学教育学会第 42 回年会実行委員会

E-mail：jsseam42 [at mark] gmail.com

14. 第 42 回年会実行委員会

委員長　　宮﨑樹夫（信州大学）
副委員長　三崎　隆（信州大学）
委　員　　市川公明（信州大学），小松孝太郎（信州大学），茅野公穂（信州大学），
東原義訓（信州大学），村松浩幸（信州大学），谷塚光典（信州大学），
油井幸樹（信州大学）

15. 年会企画委員会

委員長　　松嵜昭雄（埼玉大学）
副委員長　瀬戸崎典夫（長崎大学），日野圭子（宇都宮大学）
担当理事　大谷　忠（東京学芸大学），加藤久恵（兵庫教育大学）
幹　事　　向　平和（愛媛大学）
委　員　　泉　直志（鳥取大学），大野美喜子（産業技術総合研究所），川上　貴（宇都宮大学），
北島茂樹（明星大学），木村優里（ＮＰＯ法人東京学芸大こども未来研究所），
小泉健輔（高崎健康福祉大学），島田和典（東京学芸大学），高井吾朗（愛知教育大学），
高藤清美（筑波学院大学），高橋一将（北海道教育大学），高橋　聡（東京理科大学）
竹中真希子（大分大学），野添　生（宮崎大学），服部裕一郎（高知大学），
林　敏浩（香川大学），谷塚光典（信州大学）

2017 年度研究会開催のお知らせ

第 9 回研究会（中国支部開催），第 10 回研究会（東海支部開催）の開催案内を以下に掲載します．

研究会に関する情報は学会 Web ページに掲載しますので，ご覧ください．
※右の QR コードより，学会 Web ページ（研究会案内）にアクセスできます．

http://www.jsse.jp/jsse/modules/note7/

2017 年度 第９回日本科学教育学会研究会（中国支部開催）

［テーマ］資質・能力の育成に科学教育はいかに貢献できるか
［主　催］一般社団法人　日本科学教育学会
［共　催］国立大学法人　島根大学
［後　援］島根県教育委員会，松江市教育委員会
［日　時］平成 30 年 6 月 2 日（土）　9:00～16：30
［会　場］島根大学　教養棟 2 号館 402，403，404 教室
〒690-8504　島根県松江市西川津町 1060 島根大学
［対　象］ 会員，教員，学生，社会人
［参　加］参加費は無料です．
会員，非会員にかかわらず，どなたでも参加できます．
［申込み先］2017 年度 第 9 回日本科学教育学会研究会・企画編集委員：栢野彰秀
〒690-8504　島根県松江市西川津町 1060 島根大学教育学部
自然環境教育講座
Tel/Fax (0852-32-6307)
E-mail：a_kayano(atmark)edu.shimane-u.ac.jp（栢野彰秀）
［発表申込・原稿締切］
発表者は本学会員のみです．連名の発表の場合には，連名者のうち少なくとも 1 人が会員である必要があります．発表申し込み時に「入会申し込み」が完了していれば，会員として扱うこととします．
発表を希望される方は，氏名，所属，発表題目，E-mail アドレス，電話番号，連絡先住所，使用機器 を明記した E-mail を 企画編集委員：栢野彰秀（島根大学）までお送りください．
発表申込〆切は，平成 30 年 4 月 24 日（火）です．
発表原稿様式等については，発表申込があった方に E-mail にてお知らせいたします．原稿送付〆切は，平成 30 年 5 月 14 日（日）です．

多数の方々の申込をお待ちしております．

日本科学教育学会　中国支部長　藤井浩樹（岡山大学）

2017 年度第 10 回日本科学教育学会研究会（東海支部開催）

［テーマ］科学教育の未来を考える

［主　催］一般社団法人　日本科学教育学会

［日　時］平成 30 年 6 月 23 日（土）　10：00～16：00

［会　場］三重大学　教育学部 1 号棟 304・401・402 教室

〒514-8507　三重県津市栗真町屋町 1577

［対　象］ 会員，教員，学生，社会人

［参　加］参加費は無料です.

会員，非会員にかかわらず，どなたでも参加できます.

［申込み先］2017 年度第 10 回日本科学教育学会研究会・企画編集委員：荻原彰

〒514-8507　三重県津市栗真町屋町 1577　三重大学　理科教育講座

Tel/Fax（059-231-9325）

E-mail：ogi(at mark)edu.mie-u.ac.jp（荻原彰）

［発表申込・原稿締切］

発表者は本学会員のみです．連名の発表の場合には，連名者のうち少なくとも 1 人が会員である必要があります．発表申し込み時に「入会申し込み」が完了していれば，会員として扱うこととします.

発表を希望される方は，氏名，所属，発表題目，E-mail アドレス，電話番号，連絡先住所，使用機器 を明記した E-mail を 企画編集委員：荻原彰（三重大学）までお送りください.

発表申込〆切は，平成 30 年 5 月 15 日（火）です.

発表原稿様式等については，発表申込があった方に E-mail にてお知らせいたします．原稿送付〆切は，平成 30 年 6 月 4 日（月）です.

多数の方々の申込をお待ちしております.

日本科学教育学会　東海支部長　荻原彰（三重大学）

国際学会開催情報

今後，下記の国際学会が開催予定である．詳細については，各ホームページをご参照いただきたい．

Global Conference on Learning and Technology (Global Learn)
開催地： Orland, Florida, USA
期　間： 2018 年 4 月 17 日-18 日
https://www.aace.org/conf/glearn/

National Council of Teachers of Mathematics Research Conference (NCTM)
開催地：Washington, D.C., USA
期　間：2018 年 4 月 23 日-25 日
http://www.nctm.org/Conferences-and-Professional-Development/Research-Conference/

National Council of Teachers of Mathematics Annual Meeting & Exposition (NCTM)
開催地：Washington, D.C., USA
期　間：2018 年 4 月 25 日-28 日
http://www.nctm.org/Conferences-and-Professional-Development/Annual-Meeting-and-Exposition/

ICMI-East Asia Regional Conference on Mathematics Education (EARCOME)
開催地：Taipei, Taiwan
期　間：2018 年 5 月 7 日-11 日
http://earcome8.math.ntnu.edu.tw

International Science Education Conference (ISEC)
開催地：Barcelona, Spain
期　間：2018 年 6 月 3 日-7 日
https://clute-sci.com

International Conference on Knowledge Based and Intelligent Information and Engineering System (KES)
開催地：Gold Coast, Australia
期　間：2018 年 6 月 20 日-23 日
http://www.kesinternational.org/

World Conference on Educational Media and Technology (EdMedia)
開催地：Amsterdam, Netherlands
期　間：2018年6月25日-29 日
https://www.aace.org/conf/edmedia/

International Group for the Psychology of Mathematics Education (PME)
開催地：Umeå, Sweden
期　間：2018年7月3日-8日
http://www.igpme.org/index.php/annual-conference

International Conference on Education and Information Systems, Technologies and Applications (EISTA)
開催地：Orlando, Florida, USA
期　間：2018年7月8日-11日

International Congress on Advanced Applied Informatics
開催地：鳥取, 日本
期　間：2018年7月８日-12日
http://www.iaiai.org/conference/aai2018/

The Symposium of International Organization for Science and Technology Education (IOSTE)
開催地： Malmo, Sweden
期　間：2018年8月13日-17日
http://ioste2018.weebly.com/

International Conference of East-Asian Association for Science Education (EASE)
開催地：Hualien, Taiwan
期　間：2018年11月23日-25日
http://theease.org/conference2018.php

European Science Education Research Association (ESERA)
開催地：Bologna, Italy
期　間： 2019年8月26日-30日
https://www.esera.org/news/esera-announcements/653-esera-conference-2019

国際学会参加報告（49）
- International Conference on Education and Psychological Sciences (ICEPS 2018) -

韓国のソウル Hoam Faculty House of Seoul National University で 2018 年 1 月 27 日～29 日に開催された国際会議 International Conference on Education and Psychological Sciences (ICEPS 2018) に参加した．到着日は，今年最も冷え込んでおり，飛行機を降りる際に「外気温はマイナス 17 度なのでお気をつけください」と客室乗務員からのアナウンスがあった．山形の平野部では，最低気温がマイナス 10 度を下回ることはなく，山形蔵王の山頂へ樹氷のライトアップを見に行ったときの気温がそれぐらいだったことを思い出した．山頂の職員は，まつげが凍らないようゴーグルをかけていたことを思い出した．ソウルでもそういった装備が必要なのかと，恐る恐る外に出たが，街を行き交う人々は日本と大して変わらない服装で，地下鉄を降りてホテルまでの徒歩移動程度であれば，なんとかなる程度の寒さだった．

国際会議の Hoam Faculty House of Seoul National University は，ソウル大学に隣接するレセプション用のホテルであり，会議場があるほかに宿泊することもできる．大規模な国際会議ではないが，アットホームなコミュニケーションのとりやすい国際会議である．

発表内容は，認知心理と科学教育を足し合わせたような内容の発表が多く見られた．例えば，RICHARD M. MAGSINO 先生の「Scientific inquiry through problem-based learning in a biology classroom: experiences and lessons learned by senior high school STEM students」というタイトルでのご発表は，生物学に関する問題解決学習において，メタ認知に着目した帰納的な教訓の質を高めるための学習方略に関する調査研究であった．Septiani Y. Maudy and Endang M.先生らの「Student' Algebraic Thinking Level」というタイトルでのご発表は，幾何学分野における認知発達段階に関する実証的な研究であった．Iyan Rosita Dewi Nur 先生の「Logical-Mathematics Intellegence in Early Chidhood Students」というタイトルでのご発表は，幼児期（4-6 歳）における数学的思考能力，認知発達，知的能力の多様性を活かしたインテリジェンス能力の発達を促す学習の因果関係と効果に関して分析されていた．幼児期の学習によって，論理的な思考力，批判的思考力や創造性が育まれるとのことであった．Redo M. Ruli and Nanang Priatna 先生の「Analysis Learning Obstacle on Quadratic Function Topic」というタイトルでのご発表は，幾何学と代数を合わせたトピック学習が，二次関数の概念の定着につながるというご発表であった．私は，「The Learning Motivation and Understanding towards Programming Education of Elementary School Students」というタイトルで，ビジュアルプログラミング言語によるロボットプログラミングに対する小学生の理解度や意欲に関する調査研究発表を行った．

次回 ICEPS 2019 は，2019 年 1 月 24 日 25 日にフランスのパリで開催される予定である．その前には，関連国際会議 ICSET 2018（2018 The 2nd International Conference on E-Society, E-Education and E-Technology）が，2018 年 8 月 13 日～15 日に台湾で開催される．お盆の時期だが，STEM 教育に関する発表も多数あるので，よろしければご参加ください．

http://www.icset.org/

会場の様子

今年夏に ICSET 2018 が開催される台湾の大学の weng 先生らとの写真

筆者の発表の様子

カンファレンスのバックとサーティフィケートや論文集 USB・プログラム

ピョンチャンオリンピック直前の街並みの様子

（山形大学・加納寛子）

国際学会参加報告（50）

- International Journal of Arts and Science Multidisciplinary Conference (IJAS 2018) -

2018年3月12日～16日にアメリカ合衆国のネバダ州ラスベガスで開催されたInternational Journal of Arts and Science Multidisciplinary Conference （IJAS 2018)に参加した．筆者がラスベガスのマッカラン国際空港に到着した土曜日の夜には珍しく雨が降っていた．ホテルでチェックインして宿泊する建物まで行くのに屋外をしばらく歩かなければならなかったが，ほとんど降雨のないラスベガスのため，ホテルには傘など全く備えておらず，雨に濡れながら部屋にたどり着いた．

ラスベガスと言えばカジノであり，宿泊したホテルにもスロットマシンやビデオポーカーなどのゲームマシン，ルーレットやトランプなどのテーブルがいたる所に設置してあった．今回は国際会議での発表が目的なので，ギャンブルには目もくれず，ホテル内で口頭発表の準備にいそしんだ．

ラスベガスの中心通りから東に位置する University of Nevada Las Vegas (UNLV)が会場で，大学内のUNLV Student Union 内の一室で国際会議が開かれた．Multidisciplinary Conferenceという名の通り，様々な分野の研究が発表される．この学会のホームページでも趣旨が述べられているように，ある研究分野の専門家だけにしか理解できないような専門用語を使うことは避け，誰にでも分かりやすく，興味を引くように，TED conference風に発表することが推奨されている．ウェルカムスピーチで，主催者の一人であるJoseph Bonnici博士は，いろいろな研究分野の人が，専門外の人にも分かりやすくプレゼンし，アイデアをシェアすることが大切であると述べていた．

確かに，様々な分野から研究発表がなされた．Rajiv Narula 氏による「USING A CONSTRUCTIVIST APPROACH FOR CREATING A LEARNING CLIMATE FOR DIVERSE STUDENTS IN LARGE CLASSROOMS」と題する発表では，大学における化学の授業において，構成主義的なアプローチを取り入れ，学生の主体的参加を促した試みが紹介された.一方,Brad Colpitts氏と Jon Watkins 氏による「IMPLEMENTING A REMEDIAL ENGLISH PROGRAM AT A JAPANESE UNIVERSITY」というタイトルの発表では，日本の大学における英語教育の現状が紹介された．発表後の質疑応答の中で,「現在日本では，大学を進学希望の高校生は，ほぼ全員が大学に進学することができる．大学を卒業し，地域の会社や企業に就職した場合，仕事の中で英語を使って文書を書いたり会話をしたりする必要がほとんどないため，日本の学生は英語の習得にそれほど熱心ではない」という発言を聞いて，日本人として複雑な気持ちになった．

筆者は，国際会議の２日目のトップに口頭発表を行った.「A STUDY ON BLENDED LEARNING LINKING HOME AND CLASSROOM LEARNING USING TABLET PCS」と題する発表で，小学校の道徳の時間にタブレットPCを用いて情報モラルの授業を行い，その日に児童がタブレットPCを家庭に持ち帰って親子で情報モラルについて家庭学習を行うというブレンド型授業についての研究である．TED形式の発表を意識し，道徳の授業の一場面を再現して見せたり，タブレットPCにインストールした情報モラル指導用のアニメーションを再生したりしたので，フロアからは“Good Job!”と好評を得た．なお，この国際会議の日程には，レッドロックキャニオンとグランドキャニオンを巡る教育エクスカーションが組み込まれている．

IJAS Academic Conferencesは世界の著名な12の都市で毎年開催されている．
https://www.internationaljournal.org/

創立 60 年の UNLV

会場の Student Union

研究発表の様子

グランドキャニオン

（中国学園大学・佐々木弘記）

日本科学教育学会第 42 回年会における
若手ワークショップ・フィールドワーク・スタートパーティ予告（第２報）

若手活性化委員会では，年会 1 日目 8/17（金）の午後に，若手会員を主たる対象とした企画を計画しています．今年も，(1) ワークショップ，(2) フィールドワーク，(3) スタートパーティ，という 3 種類の企画を連続して開催します．ワークショップは，御園真史先生（島根大学）をコーディネータにお招きして，「はじめての研究デザイン :『科学教育研究』の採録を目指して」というテーマで行います．研究目的に応じて，どのように研究データを収集したり分析したりすればよいのか，その準備や計画の立て方について，具体的な研究事例をベースにして参加者のみなさんで議論したいと思います．フィールドワークは，学会会場を飛び出して，学会会場の信州大学・長野（教育）キャンパス近隣に繰り出すことを計画しています．スタートパーティは，例年通り，若手会員の相互交流を活性化する内容です．現在，充実した企画になるよう，準備作業を進めています．若手活性化委員会 Facebook ページやメーリングリストなどで，企画の詳細をご案内するとともに，参加申込を行います．ご期待ください．

○若手活性化委員会 Facebook
https://www.facebook.com/jssewakate/

○JSSE 若手研究者メーリングリスト登録 URL
https://goo.gl/tClQb4

（神戸大学・山口悦司）

編集委員会だより

特集のお知らせ

編集委員会では，下記の主旨で，「科学教育研究」第 43 巻第 2 号での特集を企画します．研究論文，総説・展望，資料，プラザ，全ての種別の原稿を募集いたします．ふるってご投稿のほどお願い申し上げます．

なお，投稿規定により，「科学教育研究」への投稿論文は，筆頭著者が日本科学教育学会の会員である必要がありますので，その点ご注意ください．

編集委員長　二宮裕之

特集編集部会長　林　敏浩

記

特集名：「科学教育におけるテクノロジー活用の将来像」

近年，様々な教育分野において積極的に ICT の利活用が行われるようになってきた．このような状況は科学教育分野も同様である．先行して，教育工学や教育システム研究を主たる守備範囲とする諸学会において教育におけるテクノロジー活用に関連する論文特集が組まれてきた．日本科学教育学会としてこのような内容の特集を組むことの意義は何だろうか．当然ながら，科学教育を軸としてテクノロジー活用を考えることは，他の教育分野と異なるアイデアが出てくる可能性がある．また，本学会はその守備範囲として，教育工学，情報教育も含んでおり，単に科学教育という視座のみではなく境界領域を越える研究・実践が想定される．そこから紡ぎ出されるモノやコトの論文は，他の学会の先例とは違う何かを包含していることを期待させられる．そんな期待も込めて本特集を企画した．

さて，上記のような書き方だと，本特集はふわふわし過ぎて何をどう書いてよいやらよくわからないだろう．そこで本特集では，論文の視点として「時系列」と「着目点」の２つの軸で考える．時系列は，科学教育におけるテクノロジー活用を過去，現在，未来に分けて捉える．一方，着目点は列挙になるが，テクノロジー活用として，ICT を利活用した科学教育，科学教育のための教育システム，そして，このような科学教育を受ける学習者・教員のリテラシーの３つに特に注目したい．さらにこれらのメタ的な着目点として，科学教育におけるテクノロジー活用の評価を加える．これらに関わる特集を実施して，科学教育におけるテクノロジー活用の将来像を日本科学教育学会として示したい．

本特集では，「科学教育におけるテクノロジー活用の将来像」をテーマとし，次のような領域の論文を募集する．

(1) これまでの科学教育におけるテクノロジー活用の総説
(2) 科学教育におけるテクノロジー活用の未来
(3) 科学教育におけるテクノロジー活用の評価
(4) ICT を利活用した科学教育
(5) 科学教育のための教育システム
(6) 科学教育を受ける学習者および指導する教員等のリテラシー教育

以下に，関連する代表的なキーワードを列挙する，投稿論文の対象や内容を限定することは意図していない．なお，特集編集部会が，上記趣旨に合わないと判断した論文については，一般論文に回っていただくこともあるので，あらかじめご承知おきいただきたい．

キーワード：

プログラミング, プログラミング的思考, デジタル教科書, e-Learning (MOOC なども含む), LMS, CBT（Computer Based Test)，CAI，教育システム，AI（人工知能)，知的教育システム，システム評価，ニューラルネットワーク，深層学習，映像教材，デジタルコンテンツ，インタネット，遠隔授業，オンラインデータベース，ロボット教材，ICT 活用指導力，Web 評価システム，学習支援システム，タンジブルインターフェイス，科学教育番組，創造性育成，タブレット，ゲーム，ゲーム教材，シミュレーション, IoT, 情報リテラシー, 情報活用能力, 情報倫理・情報モラル, Learning Analytics, IR（教学 IR を含む)，国際比較，産学官連携，STEM

特集編集部会の構成メンバー

部会長：

林　敏浩（香川大学）

特集編集部会委員：

稲垣成哲（神戸大学)，加藤　浩（放送大学)，楠　房子（多摩美術大学)，久保田善彦（宇都宮大学)，杉本雅則（北海道大学)，鈴木栄幸（茨城大学)，寺野隆雄（千葉商科大学)，舟生日出男（創価大学)，森田裕介（早稲田大学)，山口悦司（神戸大学)，吉川　厚（東京工業大学）など

事前申込締切：2018 年 8 月 31 日（既に受付を開始しています）

＊査読プロセスを円滑に進めるため，特集はオンラインでの投稿前に「事前申込」を設けております．投稿を予定している方にはたいへんお手数ですが，著者名・所属，仮タイトル，論文種別，E-mail アドレス，電話番号，連絡先住所を jsse-hen [atmark] nacos.com までお送りください．事前申込をされないで投稿を希望される場合は, その旨をご連絡の上, 投稿締め切り(9/30)までにご投稿ください．

投稿受付開始：2018 年 5 月 1 日

投稿締め切り：2018 年 9 月 30 日

＊特集に投稿する場合は，投稿システムの「手順 5: 設問」画面の「掲載号」で「特集号」を選択してください．

発刊予定：2019 年 6 月

投稿論文の取り扱い

本特集の刊行までに採択されない投稿論文については，一般論文として査読を継続いたします．

2017 年度第２回編集理事会報告

2018 年 3 月 17 日（土）11:00～13:30，2017 年度第 2 回編集理事会が内田洋行新川第２オフィス８階において開催された．

まず，「科学教育研究」の編集状況の報告が行われた．新規投稿論文（2018.1.1～2018.2.28）：14 編（内訳：和文 14 編，英文０編），査読中論文（2018.2.28 現在）：31 編（内訳：担当編集委員選定中：２編，査読者選定中：１編，査読中（１回目）：９編，担当編集委員による総合判定中（１回目）：１編，改訂稿待ち：13 編，査読中（２回目）：２編，担当編集委員による総合判定中（２回目）：１編，編集委員長による最終判定中：２編），掲載決定論文（2018.1.1～2018.2.28 現在）：３編（内訳：研究論文１編，総説・展望０編，資料２編，プラザ０編（通算合計 42-1：１編（通算４編），42-2：２編（通算２編））．

次に，第 42 巻第２号の特集「グローバル化する社会における科学教育」，及び第 42 間第４号の特集「次世代を担う若手研究者の科学教育研究」の進捗状況について報告があった．

また，第 43 巻第２号の特集「科学教育におけるテクノロジー活用の将来像」について，趣旨と特集編集部会の構成メンバーについて協議した．その他，論文執筆要項の変更，投稿・査読システムの一部修正，投稿論文における自己剽窃への対応等について議論した．

次回，2017 年度第３回編集理事会は，2018 年 6 月 16 日（土），11:00～14:00，場所は内田洋行新川本社を予定している．

「科学教育研究」投稿状況および掲載決定状況

（平成 30 年 2 月 28 日現在）

	新規投稿論文数（編）		審査中（編）		掲載決定論文数（掲載号）		招待論文数（掲載号）		掲載不可論文数	
	和　文	英　文	和　文	英　文	和　文	英　文	和　文	英　文	掲載不可	辞退
2017年　3月	9	0	27	0	5 (41-2) 0 (41-3)	0 (41-2) 0 (41-3)	0 0		6	1
2017年　4月	8	1	27	1	2 (41-2) 1 (41-3)	0 (41-2) 0 (41-3)	1 (41-2) 0		5	0
2017年　5月	4	1	22	1	2 (41-2) 4 (41-3)	0 (41-2) 0 (41-3)	0 0		7	0
2017年　6月	4	0	18	1	4 (41-3) 0 (41-4)	0 (41-3) 0 (41-4)	0 0		4	0
2017年　7月	3	1	16	2	1 (41-3) 1 (41-4)	0 (41-3) 0 (41-4)	0 0		3	0
2017年　8月	2	0	11	2	0 (41-3) 3 (41-4)	0 (41-3) 0 (41-4)	0 0		4	0
2017年　9月	9	0	15	0	2 (41-4) 0 (42-1)	2 (41-4) 0 (42-1)	0 0		2	1
2017年　10月	15	1	27	1	0 (41-4) 0 (42-1)	0 (41-4) 0 (42-1)	0 0		3	0
2017年　11月	5	0	28	1	1 (41-4) 1 (42-1)	0 (41-4) 0 (42-1)	0 0		3	0
2017年　12月	9	0	27	1	2 (42-1) 0 (42-2)	0 (42-1) 0 (42-2)	0 0		8	0
2018年　1月	7	0	27	1	1 (42-1) 1 (42-2)	0 (42-1) 0 (42-2)	0 0		5	0
2018年　2月	7	0	30	1	1 (42-2) 0 (42-3)	0 (42-2) 0 (42-3)	0 0		3	0

学会員の皆様へ

異動等による連絡先変更

学会事務局

ご所属先・ご住所・メールアドレス・郵便物送付先など変更がありましたら，なるべく速やかにご登録変更手続きをお願いいたします．ご登録内容の変更は，氏名および変更内容を明記の上，日本科学教育学会事務局宛にご連絡ください．メール，FAX，郵送にて承ります．

〒602-8048　京都市上京区下立売通小川東入西大路町 146
一般社団法人 日本科学教育学会事務局
FAX : 075-415-3662　E-mail : jsse [atmark] nacos.com

広報委員会からのお知らせ

科学教育研究レター第 237 号をお届けします．一般社団法人日本科学教育学会の広報活動についてお気づきの点などがございましたら，学会 Web サイトにある「お問い合わせ」をご利用のうえ，お知らせください．

担当理事： 森田裕介（早稲田大）　舟生日出男（創価大）

委　　員： 高橋 B. 徹（東京理科大）　村山　功（静岡大）　三宅志穂（神戸女学院大）
鈴木栄幸（茨城大学）　荻原　彰（三重大）　大嶌竜午（千葉大）
向　平和（愛媛大学）　辻　宏子（明治学院大）

幹　　事： 辻山洋介（千葉大）　石﨑友規（常磐大）

科学教育研究レター編集　日本科学教育学会広報委員会

一般社団法人日本科学教育学会　Japan Society for Science Education

ＵＲＬ： *http://www.jsse.jp*
□ 事務局　中西印刷（株） 学会部　内　ＴＥＬ：075-415-3661　ＦＡＸ：075-415-3662
E-mail : *jsse [at mark] nacos.com*
〒602-8048　京都市上京区下立売通小川東入ル
□編集事務局（論文投稿・査読編集）　ＴＥＬ：075-415-3155　ＦＡＸ：075-417-2050
E-mail : *jsse-hen [at mark] nacos.com*
中西印刷（株） 学会部　内　〒602-8048　京都市上京区下立売通小川東入ル
郵便振替口座：00170-6-85183　日本科学教育学会
銀 行 口 座：みずほ銀行 京都中央支店　普通 2269008　日本科学教育学会